

第5回三保松原景観改善技術フォローアップ会議 議事概要

日 時	平成31年3月6日（水）15：30～17：00
場 所	静岡県静岡総合庁舎7階第8会議室
出席者 職・氏名	座長 佐藤慎司（東京大学工学系研究科社会基盤学専攻教授） 委員 宇多高明（日本大学客員教授） 委員 岡田智秀（日本大学理工学部教授） 委員 篠原 修（東京大学名誉教授） 委員代理 下家時洋（国土交通省中部地方整備局河川部地域河川課長） 委員 平澤 毅（文化庁文化財第二課主任文化財調査官） 委員代理 松本 隆（静岡市建設局次長兼土木部長） 事務局 静岡県河川砂防局長、河川企画課長 ほか
議 事	I. 報告事項 1. 平成30年度のモニタリング結果 2. 保全状況報告書の提出状況 II. 検討事項 1. 1号消波堤撤去の検討 2. 2号堤検討に向けたモニタリング項目の検討 III. 平成31年度の予定
配布資料	【会議資料】 議事次第、委員出席名簿、座席表、設立趣意、設置要綱 説明資料 【参考資料】 三保松原の海岸における景観改善対策 モニタリング計画 H28.4 三保松原白砂青松保全技術会議 検討結果報告書 H28.5 三保松原白砂青松保全技術会議 検討結果報告書【概要版】 H28.5 三保松原白砂青松保全技術会議 最終報告書 H27.3

<議事概要>（○：委員、●：事務局）

I. 報告事項

1. 平成30年度のモニタリング結果

○簡易GPS汀線測量結果において、1号L型突堤のところを汀線の線を繋げてるのは現地と合わずおかしい。作図の際に気を付けること。

○現地をみて、1号L型突堤の下手にある根固工によって、思ったよりも汀線の後退が少ないように感じたが、後退はしているので、今後、1号L型突堤の縦堤に上って下手側の写真を撮り、汀線の確認をしていただきたい。

○三保飛行場前面の1998年と比較した断面では、下手側の測線は安息勾配で土砂が堆積して一定勾配で前進しているが、No.13、14、15の沖合では緩い勾配で砂が堆積しており、細かい砂が落ち込んでいるように見える。証拠はないが、3次元的な動きが

関係しているかもしれないので今後も注意していただきたい。

- 景観モニタリングで詳細に分析しているが、資料に、視角の分析や見えの大きさを評価する理由や、養浜とのバランスや海象条件によって見え方が変わるという前提を記載しておく必要がある。
- 県民の方にも分かるように「見えとは何か」というところから会議資料に記載したり、分かりやすい広報資料を作成してはいかがか。

2. 保全状況報告書の提出状況

- 保全状況報告書について、「富士山での実践を類似の課題に直面している他の文化的景観（の事例）とも共有する機会を設けるよう奨励する」とは、静岡県の実践を積極的に共有してくださいという趣旨か。
- 前身の三保松原白砂青松保全技術会議で決定した防護と景観の改善を高次元で両立させる取組みを、事例も少ない中で静岡県が実施しているため、他に悩んでいるところがあれば情報提供してほしいといった意味合いが込められていると考えている。
- この「奨励する」は「encourage」と記載されている。締約国の日本に対するメッセージでもあり、「日本はよくやっている。」ので「何かあれば聞きに行くように。」という意味合いのものである。具体的なアクションを求めている決議ではない。
- 保全状況報告書を提出した後の審議の状況や議事録を確認することはできるか。三保松原の景観改善対策の状況をイコモスがどう受けとめているかを知ることができるか。
- 世界遺産センターがインターネットで、議事録ではなく、決議の最終結論のみを公開している。富士山の構成資産全体も含めて1つの遺産のため、全体についての内容が主で、一部分として前進している取組みの記載がある。
最初に勧告を出したのはイコモスであるが、その勧告を踏まえて世界遺産委員会がその宿題を出しているという形のため、世界遺産委員会の中で改善の進捗状況を把握しており、「日本ではきちんと取り組まれている」ことが報告されていると思われる。
- 構成要素から外すという議論にならない限りは、うまく進んでいるという解釈でよいという理解であろう。

II. 検討事項

1. 1号消波堤撤去の検討

【1号L型突堤について】

- 現場をみて、1号L型突堤は消波ブロックを積み重ねた消波堤に比べ、水平線を横切

らず、ずっとすっきりしていた。

- 1号L型突堤によって、その下手側の汀線に影響が出てくるため今後も注意していただきたい。
- 消波堤と1号L型突堤は、工事費だけでなく維持管理費も比較確認しておいた方がよい。消波堤に比べて1号L型突堤は散乱等が生じにくいので、将来的な維持管理費も含めたデータは、国土保全上や他海岸の管理者にとって非常に重要なデータになる。
- 現在行っている消波堤の災害復旧費も含めて整理しておいた方がよい。静岡県だけでなく、国土交通省にも是非示していただきたい。
- 接続堤に立入る人が出てくると思われるが、鉛直の壁のため落ちた場合には危険である。工事区域を外した途端にそのようなリスクが高まるので、同時に安全管理をしっかりとしていただきたい。
- 比較的緩傾斜な施設である既設L型突堤でも注意喚起されていると思うが、それよりはレベルを1つ上げて注意喚起をしていただく必要があるというご指摘である。

【撤去後の評価について】

- 海岸構造物の見えの評価方法のグラフで横軸を時間軸としているが、台風の時期だけでなく、養浜時期と養浜量を加えた方がよい。構造物の見えの数値が徐々に小さくなるのは養浜の効果でもある。養浜は、単純に国土保全のみならず、景観保全にも役立ってくるのが時系列で確認できてくると思われる。
- 見えの角度を客観的な指標として持つておくのは、本会議では大事である。一方で、観光客を含めた来訪者がどう感じているか等の、第三者の主観的判断も重要であるため、撤去前に写真を撮影しておき、撤去レベルaが終わった段階で撤去前後を比較した聞き取りを行った方がよい。その意見によっても、次の撤去（レベルb1）の実施に対する判断も変わってくる可能性がある。
- 聞き取りの方法については事務局で検討し、先生方にご相談させていただきながら進めていく。

2. 2号堤検討に向けたモニタリング項目の検討

【検討に向けたスケジュールについて】

- 2号堤は、1号L型突堤よりも三保の先端に近い位置になるため、別枠で検討している「持続可能なサンドリサイクル養浜の検討」と並行して進めていただきたい。

【2号消波堤について】

- 2号消波堤の災害復旧では、ブロックを50t型から64t型にするようだが、十数tのランクアップで効果があるのか。大型化以外に何か違う工夫があってしかるべきではないか。
- 2号消波堤を2号L型突堤に置き換えることで構造自体を変えることになるが、その置き換えは今後5年といったスパンで進める計画であるため、それまでの間の再度災害を防ぐために、計算上、同等の高波浪がきても被災しないように重量をアップして災害復旧を進めている。
- 駿河湾に入射する波が、確定的ではないが最近大きくなっているようなので、海岸管理者にとっては頭が痛い状態であると思われる。
- 2号消波堤は非常に短期間の間だけ64t型で復旧するのであれば、もったいない。安倍川に近い静岡海岸から砂が回復してきており、64t型の転用先はあるのか。
- 64t型ブロックの活用については、清水海岸の保全の考え方に沿った形で検討していきたいと考えている。
- 清水海岸のヘッドランド区間など、まだ防護上危ない箇所もあるので、活用する先は考えられるのではないかと。

【その他】

- 1号L型突堤は形状がL型ではなくなったため、他に名称を考えてはどうか。以前からあるL型突堤との違いを分かりやすくした方がよい。
- 新しい施設ができて施設名が紛らわしくなってきたため、今後、現場でも分かりやすい名称を考えていきたい。

Ⅲ. 平成31年度の予定

- 全体のスケジュールを見ると、年中工事をやっている感じがする。1号L型突堤ができてせっかく観光客が来ても、下手の方を見たらクレーンで64t型ブロックを吊り下げているという風景は、富士山になじまないのではないかと。
- 工事は仕方ないが、観光客が来る場所であるということも考えて、施工計画や段取りを工夫していただきたい。
- 観光客などに工事の内容を上手く分かってもらえれば、工事中の方が面白いという考えもある。工事現場は隠すのではなく、説明を工夫し、見えるようにしておいた方がよい。
- 工事のPRとして、中部地方整備局では「旬な現場」という広報を行っており、参考にしていきたい。

- 静岡市が整備された三保松原文化創造センターに海岸事業の紹介ブースを設けて、積極的なPRを考えている。
- 現場でのPRとしてQRコードが活用できる。1号L型突堤整備中に行ったミスマッチのフォトコンテストのように大々的に宣伝いただきたい。
- 景観に配慮した養浜盛土の施工においてICTの活用を検討するとあったが、国の工事でICTの事例が多数あるため参考にしていただきたい。

以上